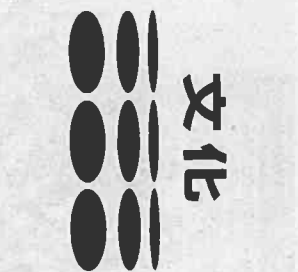


「公墓」は、終戦時の混乱により、旧満州に置き去りにされた近しい死者を祀る「日本人郊外の方正墓」に5000人中国・黒竜江省ハルビン市存在になるだろう。



文化

「日」中国の一部「スナブ」の中は、事あるごとに嫌中感情や反日感情を燃つとする傾向がある。民族主義「ナショナリズム」はしばしば感情に訴えるため、非常に狭い視野に陥りがちだ。大事なことば、何事も白中の関係者が合理的に話し合い、対処していくことであって感情的に反応することではない。ましてや、政治問題化することはない。

# 中国に立つ「日本人公墓」に思う

(黒竜江省方正県)

おおるい・よしひろ  
1944年、大阪市生まれ。  
㈱日中科学技術文化センター  
第一理事・事務局長。雑誌社勤務を経て、79年から中国との交流に携わる。2002年、日中国交正



大類 善啓  
常化30周年を記念するため、孫文を支えた知られざる日本人・梅屋庄吉を取り上げるテレビ番組を企画。日中共同声明調印の記念日に当たる同年9月29日、全国放送された。

## ◆ 満州開拓民5000人の悲運の死 ◆ 紅衛兵の破壊要求を退けた省政府



1 2003年5月、黒省政府  
公安局日本人係の担当職員は松田さんに「おな



多くの開拓者が眠る「日本人公墓」(「方正友好交流の会」提供) 二南誠撮影

# 時代を超え、両国友好の「象徴」に

れ、亡くなった人たちの墓である。おとむと中国の土地であった旧満州に国策として入り込んだ開拓民は、1945年の夏、その運命に敗戦の知らせを受け、奈落の底に突き落された。祖国を目指して逃げ惑い、難民、流民と化していった人々は、零下40度と

め、石垣をかけた3日、晩に撤退した後だった。無念の思いで亡くなった日本人たちの遺体は、方正県の名取谷所で山積みになっていった。関東軍の物資補給基地が「関東軍の思い」と聞いた人々は、必死の思いで方正にたどり着いた。しかし結果は、無り着いた。祖国を目指して逃げ惑い、難民、流民と化していった人々は、零下40度と

は、それが、終戦の年の秋から翌年にかけて亡くなった日ばかりで、ハルビンから方正県まで運ばれた。まだ賣しわかった。松田さんは「散乱する目撃をそのままにしておくれただ。1986年から文化大革命が荒れ狂った時、紅衛兵たちがこの日本人公墓を破壊しようとした。しかし省政府は「これは日本軍の墓ではない。日本の歴史の墓である。彼らに罪はない」と首相の決断にあって、日本紅衛兵の要求を退けた。中国政府および中国人が許された

ていかわ1984年に建立された「麻山区日本人公墓」も立っている。黒竜江省麻山区で「人民政府の進撃に遭い、四百数十名が集団自決した」といわれるがどうぞい麻山事件の被害者たちの墓である。日本人の側も有志で「方正友好交流の会」を結成し、90年代初めから、方正地区に対する、さまざまな支援活動を始めている。ハルビン市方正県に建立されている日本人公墓について、

「方正地区日本人公墓」という碑銘を刻んでもらった。高だ。そして、腕の立つ書家に頼まれた。松田さんは「政府の手で建立することに決ましました。皆さんは安心して家で一生懸命働いてくれた花崗岩を採り出してくれたい」と伝えた。松田さんはい。お私の言葉をご述

(方正友好交流の会 事務局長)